

科目名称：	ゼミナールⅡ	
担当者名：	藺森 喜美、藤元 宏一、瀬戸 就一、矢澤 建明、越野 裕美子、廣瀬 元、井戸 健敬、若月 博延、坂上 牧子、小原 慎平	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
<p>入学以降、ビジネス実務に関して幅広い学修を行い、ビジネス現場で役立つ知識や技能を身に付けてきました。ゼミナールでは、これまでに学んだ知識・スキルを活用し、少人数のチームで研究テーマを設定して教員指導の下で自発的な研究調査・課題解決を行うことにより、能力発揮のしかたを学んでいきます。内容は、前期の「ゼミナールⅠ」からの継続になります。また、各教員の指導の下、ふれあいを通して有益な学生生活を送ることもゼミナールの大きな目的であることも付け加えておきます。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>「ゼミナールⅡ」では、前期の「ゼミナールⅠ」での実績を踏まえて、研究調査・課題解決の最終成果を出すのが第一の目標です。成果物は最終の公開研究発表会でビジネス実務学科全学生・教員の前でプレゼンテーション形式での発表を行います。これらの活動を経ることで、各学生が社会人としての考察力・発信力を身に付けることが第二の目標です。</p>		

ビジネス実務学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、ビジネス社会で求められる基礎知識を修め、地域社会を理解するとともに多様な文化に対応できる幅広い教養が身につけている。	○
DP(2)	医療事務や観光業を含むビジネスの専門知識や技能を身につけ、各種資格を取得し、ビジネスワーカーとして他者と協調・協働することのできる実践力を身につけている。	
DP(3)	多様なビジネス社会に対応できるよう豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(4)	学生一人ひとりが、ゼミナールを通して、ビジネス現場における様々な課題に取り組み解決する学修経験を積み重ねることで、その場の状況に応じた活用力を身につけている。	○

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
ビジネスDP(1)				50	50
ビジネスDP(2)					0
ビジネスDP(3)					0
ビジネスDP(4)				50	50
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし	《内容1》	《経験年数1》
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

ゼミナール活動ルーブリック	すばらしい(10)	よい(8)	あと少し(6)	がんばろう(4)
問題設定力	自ら問題を設定することができる。または、何が問題であるのかを論理的思考により設定できる。さらに、問題を記述し明確にできる。	自ら取り組む問題を設定することができる。または、何が問題であるのかを論理的思考により設定できる。	自ら問題設定をすることはできないが、何が問題かを明らかにできる。	何が問題か明らかにはできないが、問題設定の議論に加わることができる。
調査分析力	問題解決のために必要な分析できる能力があり、そこから新たな提案をすることができる。また、インターネットだけでなく、必要な文献を検索し、読解することができる。	問題解決のために、必要な資料さえあれば分析できる能力がある。インターネット等で必要な資料を集めることができる。	メンバーの一員として、分析に協力できる。	メンバーの一員として分析した内容を理解している。
共同作業力 × 2	グループのリーダーとしてまたはそれに準ずる役割を發揮し、研究・調査・制作を行い、まとめることができる。グループのスケジュールを調整し、遂行することができる。	グループのリーダーをサポートする役割を果たし、研究・調査・制作を行い、これをまとめることができる。	グループの一員として研究・調査・制作に貢献している。	グループの一員として研究・調査・制作の作業ができる。
実地調査力	自分ひとりでアンケート調査、インタビュー調査を設計することができる。さらにフィールドワークを実践できる。	グループ全体でアンケート調査、インタビュー調査を設計することができる。さらにフィールドワークを実践できる。	グループの一員としてアンケート調査、インタビュー調査を設計することができる。	フィールドワークの経験はないものの、各種調査をすることができる。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 「ゼミナールⅠ」で学んだ内容を基に、公開研究発表会(ゼミナール発表会)の課題をどうするか議論する。	「ゼミナールⅠ」で学んだ内容を復習する。	20分
第2回 課題の明確化を議論する。	ゼミナール発表会のための課題をどう設定するか考えておく。	30分
第3回 各ゼミテーマに沿って、資料収集・インタビュー調査・フィールドワークを行っていく。	課題を基に、各自情報収集をする。	40分
第4回 収集データのまとめと考察を行う。	各自、情報収集の報告データをまとめておく。	40分
第5回 各ゼミテーマに沿って、研究方策・制作方策の立案を行う。	データを基に、各自、研究・制作の方策を考えておく。	30分
第6回 各ゼミの研究方策・制作方策に沿って活動する。	研究・制作などの準備。	30分
第7回 各ゼミの研究方策・制作方策に沿って活動する。	研究・制作などの準備。	30分
第8回 各ゼミの研究方策・制作方策に沿って活動する。	研究・制作などの準備。	30分
第9回 各ゼミの研究方策・制作方策に沿って活動する。	研究・制作などの準備。	60分
第10回 活動のふりかえりと今後の課題を検討。	各自、活動のまとめを行う。	60分
第11回 発表概要集の作成。	発表概要集作成の準備。	60分
第12回 発表概要集の作成。	発表概要集の校正。	60分
第13回 結果のまとめを行い、公開研究発表会(ゼミナール発表会)の準備をする。(ポスターセッションポスター作成)	ゼミナール発表会(パワーポイント・ポスター等)の準備。	60分
第14回 結果のまとめを行い、公開研究発表会(ゼミナール発表会)の準備をする。(ポスターセッションポスター作成)	ゼミナール発表会(パワーポイント・ポスター等)の準備。	60分
第15回 結果のまとめを行い、公開研究発表会(ゼミナール発表会)の準備をする。	ゼミナール発表会(パワーポイント等)の準備・発表練習。	60分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、各ゼミ教員の方針にもよるが、準備などを小レポートにまとめることとする。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。
活動状況50%、発表概要及び発表会を50%で考慮し、ゼミナール担当教員全員で、評価します。

課題に対してのフィードバック

活動の最終段階で、各ゼミナール担当より活動状況についてのルーブリック評価を返却します。

教科書・参考書

各ゼミナール担当教員の方から随時指定します。

「金城ビジネス学会」 発表ルーブリック	すばらしい(10)	よい(8)	あと少し(6)	がんばろう(4)
発表内容・構成(発表概要含む)	問題設定が明確であり、豊富な内容をきわめて論理的に構成して発表している。	問題設定が少しあいまいであるが、内容が豊富で論理的に構成された発表をしている。	内容は豊富であるが、問題設定があいまいで、構成が体系立てられていないまま発表している。	内容としての分量はあるものの、問題設定がなく、まとまりのない発表をしている。
スライド、図表・画像・映像など	プレゼン内容を補強するための図表・画像・映像などを効果的に使い、文章を多用せず、インパクトがあるスライドを作成している。	文章は多いものの、内容を支持する図表・画像・映像などを使っている。	図表・画像・映像をたまに使っているが、プレゼン内容を支持しておらず、文章中心のスライドをつくっている。	図表・画像・映像をまったく使わず、文章のみのスライドをつくっている。
発表姿勢	聴衆とアイコンタクトを保ち、大きな声でボディランゲージがあり、スライドをほとんど見ずに発表している。	聴衆とのアイコンタクト、十分な声量、ボディランゲージ、スライドを見ずに発表のうち、2つができてくる。	聴衆とのアイコンタクト、十分な声量、ボディランゲージ、スライドを見ずに発表のうち、1つができてくる。	聴衆とのアイコンタクトがとれず、声小さく、ボディランゲージもなく、ずっとスライドを見たまま発表している。
内容理解・質問応対	プレゼン内容を十分に理解して発表している。また、質問に的確に応え、かつ詳しく説明できる。	プレゼン内容を理解して発表している。質問に対してつまるところもあるが、何とか説明できる。	プレゼン内容をよく理解せずに発表している。初歩的な質問には応えられる。	プレゼン内容の知識に乏しいまま発表している。内容に関する質問にうまく応えられない。
他の学生の発表を聴く者として	他の学生の発表を真剣に聴き、関心のある発表で積極的に質問している。	質問はできなかったが、他の学生の発表を真剣に聴いている。	質問することもなく、他の学生の発表をよく聴いていない。	他の学生の発表中に、うっかり居眠りをしている。

以下は昨年度の研究テーマ(後期)の参考例です。

- ・SDGs ミライのカタチ ～地域企業の取り組み～
- ・加賀の魅力発見 ～食と自然と伝統に出逢う旅～
- ・能登の魅力発見 ～恋人の聖地が盛りだくさん！能登半島の見どころ！～
- ・社会で選ばれる人づくり
- ・どの世代にも楽しめるキャンドルワークショップ
- ・キャンドルイベントを終えて
- ・コロナ禍でのサマフェスキッズランド実施に向けて
- ・SNSで伝える白山市の魅力
- ・手取キャニオンロードサイクリングの魅力
- ・みんなでつなぐ自転車100kmチャレンジ ～手取キャニオンロードをナショナルサイクルルートへ～
- ・地域を元気にする ～兼六園ガイド2021～
- ・地域を元気にする ～鳥越地区の課題探求～
- ・地域を元気にする ～スノーフェスについて～
- ・ふるさと白山市プロジェクト ～新たなる挑戦～
- ・ふるさと能美市プロジェクト
- ・お菓子変身プロジェクト
- ・ビジネス実務学科はどんな子が来るの！？
- ・私たちが考える栄養についてのレシピ
- ・ファスティングとは？
- ・遊学館バレーボール部のマネジメント
- ・Google Apps Script 活用法
- ・Raspberry piを利用した温度センサーの実験
- ・Tyrano Builder を使ったゲーム制作
- ・Word Press による掲示板サイトの構築
- ・5G通信の特徴と2021年の現状
- ・新型コロナウイルス感染の推移と医療機関の対応
- ・富山を楽しもう ～富山ドライブ雑誌の作成～
- ・おすすめ能登旅行とグランピング ～能登ドライブ雑誌の作成～
- ・未来カフェ ～理想の金城周辺カフェの企画～
- ・健康×ダンスの提案 ～骨盤・股関節編～
- ・ハーブやアロマを日常生活に取り入れよう
- ・幸せについて ～ポジティブ心理学より